

## 「見たり、聞いたり、探ったり」No.274 通算 No.425

青 木 行 雄

## 江東区「夢の島」の今と歴史

都心に近くて広々とした森林の中にユーカリの森、 大きくなった木々の緑、のんびりとただよう空気、都 心とは思えぬ公園内の静けさと林、そして設備。東京 駅からJR京葉線で10分、新木場駅でおり、首都高湾岸 線の高架をくぐるとそこが夢の島公園の入口である。 植生豊かな木々が潮風に揺れて、人々をむかえてくれ る。1978年(昭和53)積み上げられたごみの山に土をか ぶせて緑化し、都が夢の島公園としてオープンしたと き、潮風は強く、乾燥した荒れ地でもたくましく育つ ことを期待されて植えられたのがユーカリの木だっ た。都内の動物園で暮らすコアラたちのエサにここか ら運ばれていた話も聞いたことがある。場内にある競 技場では、たくさんの若者がランを楽しみ汗を流して いた。その先ではマリーナがあって小型船が係留停泊 し都心では見られない風景で実に楽しい。外国にでも いる感じがする。レストランではバーベキューなども 楽しめて、家族連れや若者達がはしゃいでいた。東京 五輪・パラリンピックではアーチェリーの会場になり、



大きく育った「ユーカリの木」



「夢の島」の地図。年間を通してかなりの人が集まる



新木場の駅前広場、JR新木場、地下鉄有楽町線、りんかい線新木場駅等



JR新木場下車して、すぐ近くに公園入口がある



新木場駅近くに広い夢の島公園駐車場がある



広大な公園内



マリーナの事務所とレストランがある。バーベ キューが出来るレストランもある



マリーナ停泊中の船。すばらしい風景である。江東 区にこんなすばらしい所もあるよ



第五福竜丸展示館。中に福竜丸の大きな木造船が横 たわっている。木造船では2度と出来ない大変貴重 な船である



第五福竜丸展示館の建設風景

対面には野球場が12面もあって昨年の11月には、スケートボードパークもオープンしたし、スポーツと レジャーの一大集積地となった。

整理・整頓された夢の島公園をすがすがしい気持ちで歩いていると、巨大なテントのような建物の前に出くわした。日本でも有名になったマグロ漁船として活躍し、あの知名度の高い「第五福竜丸」の展示館があった。1954年(昭和29)、太平洋・ビキニ環礁で米国の水爆実験に遭い、乗組員23人が健康被害を受け、原水爆禁止運動の象徴にもなった。その船がこの夢の島にあるのを少々説明しなければならない。実はこの船が夢の島に捨てられていたのである。夢の島の歴史について後で少々くわしく書くとするが、

以前ここが陸から海から、この島にありとあらゆるご みが捨てられていた。その中に、廃船となったこの第 五福竜丸もあったのである。1967年(昭和42)に係留、 放置されているのが見つかり、翌年に朝日新聞「声」の 欄に「沈めてよいか、第五福竜丸」の投稿が掲載される と、全国的な保存活動が巻き起こった。そんなことで 1976年(昭和51)東京都のはからいで展示館が完成し、 本物の昔の船に復元された第五福竜丸が見近に見るこ とが出来るようになった。もちろん入館は無料でだれ でも見ることが出来て係員がいちいち説明までしてく れる。

また島の中心施設の一つに、1988年(昭和63)に開館した「熱帯植物館」がある。植物多様性保護のために1千種を超える亜熱帯植物が育てられ固有種の多い東京都小笠原の植物も守られている。またここでも、なぜ亜熱帯の植物をということになるが、調べてみると、

植物館には清掃工場が隣接している。そこで出た焼 却熱を有効利用し、熱帯の環境をつくっているという のである。

巨大な温室に入ると全身に湿気を感じ南国のムードがただよって来る。上着をぬいで進むと南国の植物が旺盛に繁茂し、色とりどり鮮やかな花を咲かせるこの空間にいると、つい元気をもらい、笑顔になれるような気がする。川あり、流れ落ちる滝あり、ジャングルクルーズのような気分になる。開館した当時よりはるかに木々も大きくなり、すばらしく成長した。汗だくになって外に出ると公園には何組かの人々がそれぞれランをしたり、散歩などで楽しんでいた。



丸いドームのような「熱帯植物館」 亜熱帯の植物が 1000種以上あるという



森のむこうにドームのような建物が見えるが水泳場 や体育館等である



江東区巨大新清掃工場。1日1000台のゴミのトラックが入場し、1週間に1300tものごみを消化するという

それでは「夢の島」誕生と歴史について。

「夢の島」は東京湾を埋め立てて作られた人工島であり、江東区の町名でもある。正式に地名となったのは1975年(昭和50)であるが以前はただの愛称であり、当時の正式名称は「東京湾埋立14号地」といった。

前記の通り、今は緑あふれる公園になった夢の島であるが、かつてはゴミの島として有名であった。 しかし最初からゴミの島だったわけではない。「夢の島」がどうして出来上がったかくわしく記してみる。

## 夢の島の誕生

江戸時代よりも昔の東京湾は、荒川・利根川などの多くの河川から少しずつ土砂が流れ込み、溜まった土砂により遠浅の海を形成してきた。江東区は昔はその大半が海であった。江戸時代に盛んに埋め立てが行われ、現在の江東区が形作られた。

そして現在の夢の島である「東京湾埋立14号地」は、 戦時中に誕生した。

1938年(昭和13)に江東区沖に巨大な水陸両用空港「東京市飛行場」を作る計画が立てられ、その建設予定地として14号地が作られた。しかしすぐに戦局が厳しくなり、飛行場計画は資材不足のため途中で中止となった。

終戦から2年後の1947年(昭和22)、使い道が未定だった14号地に海水浴場がオープンした。その名も「夢の島海水浴場」。この時からこの土地は「夢の島」と呼ばれるようになった。当時の東京湾は、高度経済成長による水質汚染が起こる前で、とてもきれいな海だったという。ビーチにはヤシの木が植えられ、「東京のハワイ」として宣伝され、家族連れなどで賑わったという。しかし、たび重なる台風被害や財政難により、たった3年で閉鎖された。その後、巨大遊園地を作る計画などもあったというが頓挫し、7年間も放置されたようである。

その後、日本は高度経済成長期に突入し、国民の生活は日増しに豊かになり、人口は爆発的に増え始めた。 それに伴い都内で発生するゴミも急増し、それまでの 処分場ではまかないきれなくなった。

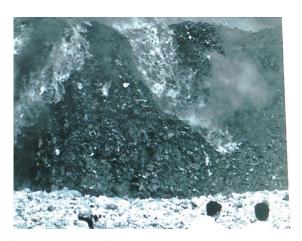
そこで1957年(昭和32)からゴミの埋め立て処分場として選ばれたのが夢の島である。それにあたり、東京都は江東区に対し、ゴミによる公害を防ぐことを公約



ゴミの島の現状を見る



歩道橋にかけられた「ゴミを江東区だけにおしつけ るな」の横断幕が目立つ



大量のゴミで夢の島は覆われ、ハエとねずみに悩ま された

した。しかし当時のゴミ処分は、生ゴミなども燃やさずにそのまま夢の島に投棄するというものでした。 東京で出たゴミの7割が江東区に集まり毎日5000台の収集車で運ばれたため、夢の島はあっというまに ゴミに覆われてしまった。江東区内では渋滞や交通事故が多発し、収集車から道路へとこぼれた生ゴミ や汚汁が悪臭を発生させ、夢の島から出てきたハエや大きなネズミが住民の生活をおびやかした。

極めつけは、1965年(昭和40)、夢の島のゴミの山の中から発生したハエの大群が江東区の住宅街に襲

来した。ありとあらゆるものにハエが群がり、小学校では授業もままならないほどだったといい、この被害は4ヶ月以上も続いた。これは全国的なニュースで取り上げられ、夢の島一帯のゴミを焼き払う「夢の島焦土作戦」が決行された。同年11月に、2万個の毒団子によるネズミの駆除作戦も行い、そんなことで夢の島はゴミの埋立地としての役目を終えた。江東区に住んでいた私はそれはそれは大変なさわぎだった事、バケツに大量のハエ、ネコ程大きなネズミなどを今でもはっきりおぼえている。

その後、ゴミの埋立地としての役割は夢の島の隣の隣埋立15号地、通称"新夢の島"(現在の若洲)に移ったが、ゴミによる公害は続いた。1971年(昭和46)、江東区長が「江東区だけが都市のゴミ公害の吹きだまりにされるのはゴメンだ」と発言し、それに対し当時の東京都知事は「ゴミ戦争」を宣言し、各区で発生したごみは区内で処分するよう、ごみの焼却処分を行う清掃工場の建設を約束、今日まで続くゴミ問題が広く知れ渡るきっかけとなった。

その後、自区内への清掃工場の建設に猛反対する杉並区に対し、江東区が道路を封鎖してゴミの搬入を実力行使で阻止、ゴミの回収が中止となり、杉並区の路上にゴミが放置される事態にまで発展したが、その後ゴミ戦争は終結に向っていった。現在でも東京湾へのゴミの埋め立ては続いているが、ゴミは清掃工場で焼却されることで体積が約20分の1以下の灰となってから埋め立てられるため、生ゴミによる公害は無くなっていった。

江東区の清掃工場がこの「夢の島」に作られることになったのである。江東区から要請に伴い、東京都は清掃工場建設の見返りとして、夢の島を公園化して、その中に清掃工場の余熱を利用した温室、体育館、水泳場、競技場、野球場の5施設を建設することを約束した。

1974年(昭和49)に江東清掃工場が完成、翌年に「夢の島」が正式な町名となり江東区編入。約東通り、体育館や水泳場なども順次開館した。夢の島の全域を覆うゴミの層の上に土を被せ、芝生や樹木を植えて緑化し、1978年(昭和53)、ついに「夢の島公園」がオープンしたのである。

植える植物の選定を行った所、潮風や荒地、乾燥に強いと言われた前記のようにユーカリが選ばれた そうである。このユーカリの葉は、都内の動物園のコアラのエサとしても供給された。その後、カナリー ヤシやマルバデイゴなど熱帯・亜熱帯産の露地栽培ができる樹木なども多く植樹し、かつてはゴミの島 と呼ばれた悪評高き江東区の人工島は、異国情緒あふれる緑の公園に生まれ変ったのである。

そして今「新木場連絡会」という組織26団体があって2ヶ月に1度会合を開き、「新木場」・「夢の島」・「若洲」の発展に寄与している。

令和 4 年12月25日 記

## 参考資料

「東京港の歴史パンフレット」 江東区発行「江東の昭和史」 朝日新聞